

市政運営方針

住み続けられるまち綾部へ

平成30年度の事業や予算を審議する市議会3月定例会が3月5日に開会。3期目を迎えた山崎善也市長は「この日、「医・職・住・教育・情報発信」をキーワードに「住んでよかった・住みたくなる」から「住み続けられるまち綾部」の実現を目指す市政運営方針を述べました。

次の世代に希望を

これまでの2期8年間「現地・現場主義」を貫き、国に先んじて綾部市の人口動態を分析。定住・交流の促進を最優先課題と位置付け、戦略的なまちづくりを展開してきました。

また、課題の整理と「見える化」を図り、課題解決と将来への種まきを行ってきました。これまでの取り組みは順調に推移。また種がさまざまな形で芽吹き、実ってきました。今後は、人口減少社会、厳しい財政状況の中にあっ

て、次の世代に希望が見える工夫が必要です。

多様な連携で課題解決

そのために、まずは医療、福祉、保健、介護、子育てなど、広い意味での「医」を充実。「職」として働く場所を確保し、生計を立て、次の子育てができる環境を整えます。

また、安全・安心は、「住」としての住みややすさでまちづくりの基本です。綾部市は、犯罪の少ない安全なまちですが、市民生活の安全・安心は、一朝一夕に確保できません。頻発する自然災害の被害を最

子育て世帯対象の各種届出窓口の時間延長やコミュニティナース=写真=の増員による地域活性化支援など、少しの工夫と少しの予算でも市民生活に寄り添うことができる15の施策を展開



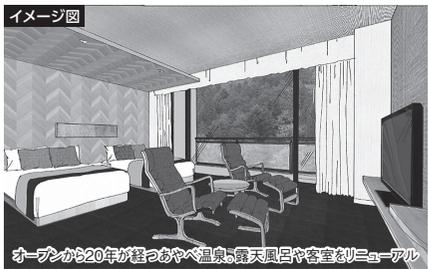
所信を表明する山崎市長



聴覚言語障害者向けの119番通報システムを導入



平成31年春の完成を目指し工事が進む(仮称)新市民センター



イメージ図

オープンから20年が経つあやべ温泉露天風呂や客室をリニューアル

小限に食い止める対策、高齢化が進む中での救急体制の充実、原子力災害時における避難経路の確保などに努めます。さらに「教育」。綾部市子どもたちの基礎学力は高くなっています。引き続き「ふるさと教育」「キャリア教育」「国際理解教育」を軸に、教育委員会や学校現場等と連携。人間として生きる力、自らの力で自分の幸せを切り開いていける教育を進めます。そして「情報発信」。多く存在する素晴らしいものを綾部ブランドとして対外的に発信します。今日の地域課題は複雑、多

様化し、市の対応だけでは困難になってきました。市民との協働はもちろん、国や府他の自治体、大学、民間企業などとの多様な連携による課題解決も図ります。3期目の市政運営は、行政の健全化に努めつつ引き続き「医・職・住・教育・情報発信」の5つをキーワードに、これまでの取り組みをさらに推し進めます。

5つの重点分野に予算配分

平成30年度当初予算における具体的な施策として、「医」では、府北部で初めて乳幼児健診時に臨床心理士による相談活動を実施。産婦健診と宿泊型産後ケアも新たに始めます。また、4月1日施行の「綾部市手話言語の確立及び多様なコミュニケーション手段の促進に関する条例」を踏まえ、市役所窓口に卓上型スピーカーを設置。聴覚・言語障害者がスマートフォン等の端末から119番通報できるシステムも導入します。さらに、民間の高齢者介護施設の開設準備を支援します。

「職」では、新たな手法のほ場整備事業を府内で初めて実施。企業への緊急人材確保対策に取り組みほか、商店街の空き店舗等を活用した起業、黒谷和紙の普及促進等を支援します。また、北部産業創造センター内に「綾部市ものづくり交流館」を開設。産学公が一体となった産業振興と産業人材の確保に努めます。さらに、海の京都・森の京都DMOを中心に広域観光に取り組み、あやべ温泉の機能も強化します。

市民生活に寄り添う事業も

「住」では河川の改修や急傾斜地の崩壊対策を実施。府と合同で総合防災訓練を行うほか、全地区に土のうステーションを設置します。また、市道宮代豊里線、味方平線等の市道整備や橋りょうの長寿命化対策も計画的に取り組みます。このほか、リサイクル施設の整備や地域によるJR山家駅周辺のにぎわい創出等を支援します。

称)新市民センターの整備を本格化します。さらに、大学と連携し、地域課題の解決に向けた取り組みを推進。山城址周辺史跡の調査や国宝光明寺二王門改修の支援を通じ、歴史的資源の保全と情報発信にも努めます。

住み続けられるまちに尽力

綾部には今、良い風が吹いています。これをしっかりと受け止め、形にして、将来にわたって持続可能なまちを次の世代に引き継ぐことが、今を生きる我々の大切な役割です。これは、チーム綾部、オール綾部の英知を結集してこそ成し得るもの。市長としてその先頭に立ち、市民が自信と誇りを持つ「住み続けられるまち綾部」の実現に力を尽くす所存です。